

音楽アウトリーチ監修の言葉

小峰智子 昭和音楽大学教授（音楽科教育）

神奈川芸術文化財団のアウトリーチ事業が、10 年以上にわたり継続されてきたことに大変喜ばしく敬意を表したいと思います。これまでに多くの方々のご努力と創意工夫が積み重ねられ、今回の丸田先生の箏のアウトリーチにつながっていると感じたご講演でした。

今回のオンラインでのご講演の中で特に印象的であったものは、（教育芸術社）5 年生の教科書に掲載されている「日本の音を使って創作してみよう」の題材をねらったもので「3 人で協働して自分たちの「さくらさくら」を創っていく」という提案でした。

小学校学習指導要領の音楽〈第 5 学年及び第 6 学年〉の目標(3)に「主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、さまざまな音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う」と記されています。まさにこの文言を思い出しました。さらに、「A 表現」の(3)音楽づくりの第 3 観点「主体的に学習に取り組む態度」にも「音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている」とあります。^ア

「さくらさくら」の旋律を演奏することのみで終わりがちな箏の学習を、一面の箏に 3 人が座り息を合わせてしかも「主体的・協働的に」ひとつの音楽を創っていく、そこに独創的な音楽が生まれることを確信しました。

子どもたちは自分たちの「さくらさくら」の音楽づくりの活動を通して、例えば「ゆり」はどのような力加減で、どのくらいの長さでゆらせば自分の理想の音楽となるかについて「主体的に考える」ことでしょう。まさに第 2 観点の「思考・判断・表現」に通じます。

子どもなりに独自に考えた事柄は、その場で必ず学習プリントに筆記させると、そこからさらに思考が広がることでしょう。それを互いに発表しあう場面を通して考えを共有すれば、他者を理解することにつながります。言うまでもなく音楽の感性を養い、音楽を愛好する心情を育むことになるでしょう。

一方で創作活動を行う際、対象学年、対象生徒に即した「枠(創作の条件や例示等)」の作り方が一番重要であると考えます。この「枠」が広すぎると子どもたちは途方に暮れてしまい創作をすることに難しさを感じてしまいます。今回の丸田先生のご提案は、一見すると非常に自由度の無い、枠が狭いものに見えますが、実際に授業をしますと、おそらく録画された音楽以外の多様な音楽が生まれると想像します。すばらしい「枠」を作っていただいたと思います。

今回の例示から多くの先生方は、「日本音楽はなんと自由なのだ」、あるいは「このように箏を打楽器として楽しんでもよいのだ」とヒントを得て、そこから新たな音楽活動を考え出すことでしょう。

このような専門家によるアウトリーチは、生の音楽を直接学校現場で披露されることが何よりの芸術文化活動の拡がりとなりますが、オンラインによるアウトリーチもまた、今回、改めて大いなる可能性を感じました。本事業が継続されることにより、芸術文化が学校において一人ひとりの子どもの心に芽吹いて、やがて大きな実りとなることでしょう。

最後に私の拙い現場経験と現在の教職課程担当教員としての立場から 3 点申し述べさせていただきます。

今後の運営のご参考となれば幸いです。

①「先生のためのアウトリーチ」の「先生」の対象者をもう少し絞るか限定しても良いのではないかと思います。大学の音楽科教職課程では、本講演の前半 16 分あたりまでは大学にて実演を含め学んでいますので、むしろ 17 分以降のような内容が欲しいと思います。しかし小学校教職課程の算数の専攻の先生などは、前半の 16 分の解説が重要で、もう少し丁寧な説明が欲しいとおっしゃるかもしれません。小学校の「先生」はこのように幅が広いと考えます。

②対面のアウトリーチ専用の構成か、それともオンラインでのアウトリーチ専用の構成かをもう少し分けて作るとより良くなる気がします。

例えば、オンラインですと、「今何をしているのか」を示すテロップなどが先生の右横あるいは後ろにあると、とてもわかりやすいと思います。また、カメラもズームしたり、違う角度から撮影などをするとさらにわかりやすくなると思います。

③私が誘い、本講演に参加した東京都の小学校音楽科教員からの要望です。

「箏は、その準備にたいへん時間がかかるので困っています、短縮方法や裏技などがあれば教えてください。慣れて早く出来るようになるしかないですかね。また、紙の箏や、箏に貼る一から巾までの紙など、手元に欲しいです」という声がありました。

次回の開催をたいへん期待しております。

ア) 文部科学省：『小学校学習指導要領 音楽編—平成 29 年 7 月』、

文部科学省『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽』東洋館出版社、2020 年